新石炭政策の早期確立を

炭労、第3次中央行動を開始

無定見は即時改めよ

エネルギー危機招いた政府

炭労はこのほど〝中闘指令〟にもとずいて、かねて政府に要求している――「昭和五十年度から、新石炭政策の発足」を実現するための中央行動を開始した。も早や政府の無定見な姿勢は、許されなくなってきている。

すでに周知のように、十月一日に開かれた石炭鉱業審議会（略称＝石審）総会は、これからは石審総合部会を中心に、新石炭政策の検討・立案作業をすすめることを決定している。

これは現在の石油をめぐる国際情勢から見て、ごく当然なことだといえよう。

ところがおかしなことに、「石炭見直し」を口にする通産省（政府）は、炭労が伝えてきたところによれば、「きわめて消極的な姿勢」をとっていて、十一月二十八日にいたって初めて、第一回の石審総合部会を開催したほどだと。

炭労は、「われわれの要求を完全に無視して、五十一年度から新政策を発足させる方針を既成事実として確立しようという、意図の端的なあらわれだ」としている。

これからすれば、五十年度の政府財政中、石炭政策予算の編成は、これまでの基調をふまえたものに過ぎず、「石炭見直し」はまさに名ばかりで、かんじんの石炭産業労働者の労働諸条件も、これまでのものから幾らも脱しないものとなることは確実。それは、労働者ぐるみのヤマのスクラップへの道でしかない。

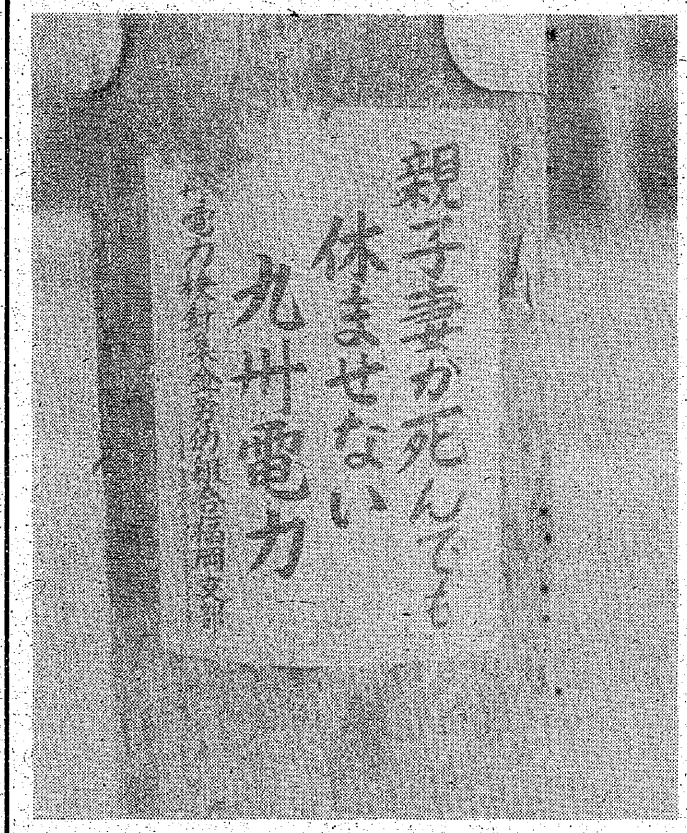
かって八百二十余坑を数えたわが国の炭鉱は、わずか十数年の間に壊滅的閉山に追いこまれ、いま三十数坑。五十万人を数えた炭鉱労働者は、職員層をふくめてさえ三万人足らずと見られている。しかもなお二百億トンといわれる可採炭量を地下に埋蔵したままだ。

たとえ石油資源の怕頭があったとはいえ、一国の重要産業がこれほどひどい崩壊状態をさらした例は他に見られない。

まさに現在深刻の度を加えながらエネルギー危機が進行していく事態は、はなはだしい自民党政権の、無定見にもとづく政策が自から生みだしたもので、一日も早く新しい展望にもとづく石炭政策が確立されなければならないはずである。

ところが、自民党政府は依然として無定見な政策をとりつづける姿勢が見られる。これは、断じて許されるべきではなく、何はさておき、一致して主張しつづけてきた炭労の要求は、明日とはいわず、今日からでも実施にうつすべきことといわなければならず、したがってこんどの中央行動のもつ意義はこれまでにもまして重い。

なお、こんどの動員数は三十人で、北海道二十五人、九州関係が五人となっている。十五日現地出発、二十一日帰着の予定で、おもに石審総合部会に向けて行動が集中するものと見られる。



はられた九州電力検針集金労組のおどろくべきポスター

成果あげた〝秋闘〟

期手、80万円もある

秋闘、特に期末手当闘争は、全般的に昨年を上まわる成果をもって終りに近づいている。

中小企業関係の労組でなお闘いはつづいている。

金額としては六十万円（朝日新聞）、八十四～五万円（小学館）などがある。それも決して少くない。

だが一般的には、四十万円台が圧倒的。

砂労がCO闘争に力添え

少し古いが、砂川炭鉱労組が常に三池労組のCO闘争に力添えしてくれることは感謝の言葉もないが、同労組の機関紙〝砂労〟に次の記事があった。

「三池炭鉱CO被災者救援物資の販売は……砂労には九月三十日三池労組のオルグの手で、五百本が届けられ、砂労も各支部を通じて販売したところ、二日ほどで全部売り切れとなりました。

三池労組のオルグも、『日ごろの支援とともに、この取り組みに積極的に取り組んでいただき、心からお礼申し上げます。組合員と家族の皆さんによろしく』と伝言して、離山しています。

組合としても、組合員と家族の皆さんの協力に、心から感謝を申し上げます」

砂労の皆さん、改めてありがとう。

平和協定破棄めざす

諸闘争と結合して　全労働者の権利奪還へ

三池労組は十三日中央委員会を開き、来年六月協定切れとなる〝平和協定〟（三池新労がストライキ権を資本に売り渡している）の破棄・ストライキ権奪還をめざし、闘いを強めることをきめた。

さきの期末手当闘争といい、七四春闘における賃上げ闘争といい、現在の炭鉱労働者が人間らしく生きることをめざす闘いの前に、大きく立ちふさがっているものが、すでに長く三池新労組が三井資本との間に締結している〝平和協定〟であることは、も早や常識的な見方となっている。

その平和協定が、いよいよ来年六月に協定切れとなることから、しぜん三池炭鉱全労働者として、それを破棄する闘いが当面の重要課題となってきた。

この情勢を迎えた三池労組は、中央委員会を開き、労働条件改善闘争、七五春闘、統一地方選挙、有明炭陸送反対、水道合理化反対、社宅立ち退き反対、いよいよ重要性を加えてきた遺族・CO闘争、高温対策……など当面する闘いを一つに結合しながら闘いを強め、三池新労組員への働きかけを深めそしてもっとも重大な平和協定の破棄をめざすことを意志統一した。いずれも重要な闘いばかりできたる年への全組合員・家族の奮起が強くのぞまれている。（討論の詳細は、報告を参照して戴く）

闘う電力検針集金労組

▼…この頃上の写真のポスターが目につく。〝九州電力検針集金労働組合福岡支部〟（メーター調べと、集金係が結集）がはったもので、この人びとは労働基準法の適用も受けていない。会社は「労使でなく、業者との契約だ」と冷たい態度だが、同労組はあくまで「労働基準法を認めよ」と、すでにねばり強く十年来たたかいつづけてきているよし。

全九電労組も、同労組の闘いを強く支援している。

本紙1000号記念文芸募集

しめ切り、いよいよ目前に

本紙はいよいよ前々号で記念すべき千号を迎えた。本紙は文字通り三池とともに歩み、輝く闘いの歴史を刻んできた。今本紙〝みいけ〟は、全国の働く者から注目され、愛読されている。私たちはいっそう、本紙を全組合員の闘いの武器として発展させてゆきたい。まずその出発として、これまでにもまして、その紙面を新春文芸で豊かに飾りたい。積極的な投稿を切におねがいしたい。

▼…本紙千号を記念して〝新春文芸募集〟をしますがその種目は次の通りです。

短篇小説　三千字以内。題は闘いと生活のなかから、ご自由に選んでください。

詩　一人二編以内。字数も題もご自由にお願いします。

短歌　一人五首以内。題は自由。

俳句・川柳　ともに一人五句以内。題自由。

姿見　千字以内。題は自由。

みいけへの提言　「こうしてもらいたい」「ああしてほしい」という希望をご自由に。

闘い・生活記録　それぞれの職場、各ご家庭で経験なさったことが数限りなくあることと思います。そのような、なまなましい経験を、三千字以内でまとめてください。

写真　新しい闘いの年にむかって、力強く歩き出そうとする労働者の表情をとらえたものを。一人五葉以内。

マンガ　これこそ主題は自由。思う存分に、資本や反動政府への痛烈な一矢をどうぞ。

その他　そのほか、種目を問いません。思いのまま、どしどしご投稿を。

×

募集種目は以上のとおりですが、なお次のことをご留意ください。

資格　三池労組の組合員とその家族。全国の遺族・CO患者守る会会員の皆さん。そのほか常に、本紙をご購読いただいている皆さん。（ただし〝姿見〟は三池の主婦と、全国の皆さんのうちの主婦の方に限ります）

選　応募作品がとくに多いときには、知名の人の手で天・地・人・佳作などを選ばせていただくことがあります。

薄謝　作品をお寄せいただく方すべてに、心ばかりの薄謝を用意いたします。

締切り　十二月二十日まで。「組合本部内、みいけ編集部」へどうぞ。

×……×

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番、③3034番
編集兼発行人　山下　開
半年間1,000円　送料共